

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0872001284		
法人名	東成産業株式会社		
事業所名	グループホームいちさと筑波		
所在地	茨城県つくば市小和田145 (電話) 029-867-2222		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年11月21日	評価確定日	平成21年2月27日

【情報提供票より】(平成20年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年9月2日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 8人, 非常勤 8人, 常勤換算 9.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建の	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,400 円	その他の経費(月額)	22,000 円
敷金	有(70,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要(平成20年10月20日現在)

利用者人数	15 名	男性 4 名	女性 11 名
要介護1	3	要介護2	8
要介護3	3	要介護4	1
要介護5		要支援2	
年齢	平均 78.1 歳	最低 61 歳	最高 89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	筑波記念病院 飯田医院 小田内科クリニック 広瀬歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者や職員はその人らしく生活できるよう日々のケアに努めている。
また、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、利用者の希望にそった入浴支援や外出支援をしている。
介護計画は利用者や家族の意見を聴いたりカンファレンスを行い、要望にそった介護計画を作成するとともに、定期的あるいは随時にモニタリングを行い、状態に即した介護計画に見直している。
食材は自家菜園で採れた野菜などを利用しており、利用者が積極的に料理作りや配膳、片付けなどの役割を担い、職員や利用者同志の温かな関係と感謝の言葉が聞こえる暮らしを支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果について管理者と職員で会議を開き、職員研修や運営推進会議の開催、避難訓練の実施など課題改善に向けた取り組みを話し合っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者や職員は外部評価や自己評価の意義や目的を理解するとともに、改善項目について職員で話し合いサービスの質の向上に活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は利用者や家族代表、区長、民生委員、市職員、ホーム代表等で2ヶ月毎に開催し、ホーム行事や利用状況等について報告するとともに意見をサービスの質の向上に活かしている。 運営推進会議に外部評価の結果報告を行い、委員に意見を求めるなど課題の改善に向けた取り組みを期待する。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族には電話連絡のほか訪問時を利用して話し合うとともに、毎月「いちさと便り」を発行し利用者の健康状態や暮らしぶりを報告している。 金銭管理は家族の了解のもと小遣い台帳を作成して管理し、そのコピーや領収書を毎月家族に送付している。 苦情受付担当者の配置や意見箱を設置するとともに、契約時に第三者の苦情相談受付機関を明記し説明している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 手作りボランティアとの交流や散歩、買い物、みかん狩りなどの外出支援を通して地域の人々と交流しているが、ホーム行事に地域の人々が参加したり、利用者が地域行事へ参加するまでには至っていないので、利用者が地域の一員として地域活動への参加やホーム行事等を通して地域の人々と積極的に交流できる取り組みを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からいつも笑顔で利用者の心に寄りそい、利用者一人ひとりを大切に安心や温もりのある生活と地域や家族の交流を大切にしたい理念を掲げ支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念について日々話し合い共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	手作りボランティアとの交流や散歩、買い物、みかん狩りなどの外出支援を通して地域の人々と交流しているが、ホーム行事に地域の人々が参加したり、利用者が地域行事へ参加するまでには至っていない。	○	利用者が地域の一員として地域活動への参加やホーム行事等を通して地域の人々と積極的に交流できる取り組みを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は外部評価や自己評価の意義や目的を理解するとともに、改善項目について職員で話し合いサービスの質の向上に活かしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者や家族代表、区長、民生委員、市職員、ホーム代表等で2ヵ月毎に開催し、ホーム行事や利用状況等について報告するとともに出した意見をサービスの質の向上に活かしている。	○	運営推進会議に外部評価の結果報告を行い、委員に意見を求めるなど課題の改善に向けた取り組みを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と連携してサービスの質の向上に努めているが、他の行政機関との連携が少ない。	○	市担当者以外の関係づくりとして、保健師や栄養士、教育委員会、生涯学習センター、公民館、社会福祉協議会等との関係づくりを積極的に行い、研修や交流に活かすなどホームの運営やサービスの課題解決に向けた取り組みを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には電話連絡のほか訪問時を利用して話し合うとともに、毎月「いちさと便り」を発行し利用者の健康状態や暮らしぶりを報告している。 金銭管理は家族の了解のもと小遣い台帳を作成して管理し、そのコピーや領収書を毎月家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は電話連絡や家族訪問時を利用して不満や要望等を聴くとともにミーティング等で話し合い、意見等が反映できるよう努めている。 利用契約書にも苦情相談受付機関を明記し説明している。	○	家族会を設けたり家族や利用者へのアンケートを実施し、意見等を把握するとともに運営推進会議やカンファレンスなどで活用するなど更なるサービスの質の向上を期待する。
9	18	職員の異動等による影響の配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は「いちさと便り」や家族訪問時等を利用して報告している。 いつでも利用者が安心して生活できるよう馴染みの職員でケアするなど、異動による影響に配慮して支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修は積極的に参加できるよう研修案内を掲示したり、地域密着型サービス連絡会や認知症介護実践者研修等に参加し、カンファレンス等で報告をするなど全職員が研修内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会に加入し、毎月情報交換や事例検討会議を実施するとともに、同業者との交流を通じてサービスの質の向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は家族等の相談に応じたり家庭や病院等を訪問し面接や調査を行い、入所前面接記録に記入し生活状況等を把握するなど、利用者や家族が安心してサービス利用が開始できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から料理や野菜作り、生活上の工夫などを教えてもらったり励まされるなど共に支えあう関係と感謝の気持ちが聞こえる温かな関係を構築している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前の面接記録簿や日誌、日々のかかわりのなかから言葉や表情、動作などで利用者の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や関係者、職員で話し合い介護計画を作成している。 介護計画は利用者や家族に説明し共有するとともに、家族の確認印をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画期間を定めて見直しをしている。 また、ミーティングやモニタリングを行い、状態の変化に即した見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や早期退院の支援、外泊支援など利用者や家族の要望にそって柔軟に支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望にそったかかりつけ医の受診支援のほか、週1回の往診や契約している訪問看護ステーションの看護師による週2回の訪問がある。 また、年1回健康診断を実施している。 受診や通院は利用契約時に説明し、利用者や家族の同意を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に終末期のあり方について家族等に説明し、看取りに関する指針同意書に記載するとともに承諾を得ている。 職員は必要に応じて医師や家族と情報交換を行っているが、重度化や終末期に向けた対応方針を共有しておらずマニュアルを作成するまでには至っていない。	○	利用者や家族、関係機関と方針の統一に向けて話し合い、重度化に向けた意志確認書や終末期に向けた対応マニュアルの作成への取り組みを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライバシーに配慮したケアの実施や契約時に個人情報取り扱いについて家族にも説明をし同意を得ている。 訪問者名簿は事務所受付に置き、利用者や家族、来所者等誰でも閲覧できるようになっており、個人情報の漏洩防止について徹底していない。	○	個人情報の漏洩防止策として、訪問者名簿を利用者毎に作成するなどの取り組みを期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや体調への配慮、その時の利用者の気持ちを尊重し食事づくりや食器の片付け、野菜作り、居室の清掃、本や新聞を読んだり、買い物や外出支援など柔軟に対応している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家菜園で採れた野菜で利用者が漬物を作り昼食に食べるなど、職員と利用者が食事の準備や後片付けを一緒にしている。 職員も利用者と一緒に同じメニューの食事を和やかに食べたり、服薬や食べこぼしなどの支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望にそった支援をしている。 また、入浴できない利用者には清拭や足浴などの支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や食器の片付け、居室の清掃、食卓拭き、野菜づくり、読書、輪投げ、トランプ、ボーリングなど利用者一人ひとりにあった楽しみや気晴らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望にそって散歩や買い物、ドライブ、行事等の外出支援をしている。 また、家族による外出支援もある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自動ドアを手動にするなど、利用者の安全面に配慮し鍵をかけない自由な暮らしを支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の人々の参加協力を得た避難訓練や夜間想定訓練は実施していない。 また、災害に備えた食糧や備品の確保についても準備するまでには至っていない。	○	地域の人々や消防団等の参加協力を得た訓練のほか、夜間想定訓練を実施するとともに、災害に備えた食糧や備品の準備が望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は業者が作成したメニューをもとに、自家製の野菜等も活用し職員と利用者で作っている。 今日のメニューを食堂のボードに書いて利用者に知らせている。 職員は利用者の食事量や水分量、体重を把握し記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内に椅子や机、ソファ、テレビ、利用者の手作り品などを配置するとともに、玄関周りには観葉植物や木製の椅子、ベンチを設置している。 各ユニットの食堂の間には中庭がありベンチを設置し、暖かな陽光のもと利用者同士が自由にくつろいだり1人で過ごせる居場所が確保されている。 トイレや浴室等も清潔に保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者や家族と相談し、使い慣れた馴染みの時計やラジオ、机、椅子、コップ、歯ブラシ、編み物用品、写真、手作り品、箆笥、仏壇などを配置し、居心地よく過ごせる場所になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。